

合併10周年

平成27年2月11日に合併10周年を迎えたつがる市は2月22日、松の館で記念式典を開催し、来賓や関係者ら約500人が市制施行の節目を祝いました。

森田中学校と本造高校吹奏楽部の合同演奏で幕を開けた式典では、福島市長が「これまでの10年間の歩みをしっかりと踏まえ、豊かな自然や文化・歴史を継承しながら、次世代につなげるまちづくりに向け、全力で取り組んでまいります」とあいさつ。市の10年間の軌跡や未来へのエールをまとめた記念映像が上映されたほか、記念事業として市民から募集した作文「私の

陽吾さんの伴奏で参加者全員が童謡「ふるさと」を合唱し、市のさらなる発展を誓い合いました。

参加した40代女性は「オーブニングの吹奏楽や参加者全員での合

10年」の優秀者に表彰が行われ、最優秀賞の成田華穂さん（稲垣中1年）の作文を司会者が朗読しました。また、市民1051人の笑顔の写真を組み合わせて制作したモザイクアートでは、市のマスコットキャラ「つがるちゃん」をかたどった見事なアートが披露された。会場は大いに盛り上がり、市出身のミュージシャン・佐々木

節目祝いさらなる発展誓う

記念式典で500人が決意新たに



参加者を出迎えるつがるちゃん



力強いソロ演奏も披露されました



記念映像で市の歩みを振り返る



佐々木さんの伴奏で「ふるさと」合唱



記念すべき節目を祝う出席者

オリジナルフレーム切手販売

日本郵便東北支社は市の自然豊かな風景や伝統文化を題材にしたオリジナルフレーム切手1000シートを製作しました。

これは、市の合併10周年記念事業の一つとして、市が依頼したものでベンセ湿原やつがる地球村、高山稻荷神社などの10枚で構成され、1シート1230円。市役所企画調整課や津軽地方の77郵便局で販売しています。

2月9日、同切手の販売開始日に成田仁木造郵便局長から福島市長に切手が贈呈されました。成田局長は「市の自然豊かな風景や伝統文化を広く全国にPRしたい」と話し、市長は「市の魅力を盛り込んだ切手の販売で10周年を盛り上げたい」と述べました。



市の魅力を盛り込んだオリジナルフレーム切手

つがる市

唱など音楽の素晴らしさをあらためて実感した式典でした。市民の歌の発表や夏に行われる柏市立柏高校の吹奏楽演奏会も楽しみ」と話していました。

式典終了後は会場を柏ふるさと交流センターに移して記念祝賀会を開催。出席者はこれまでの歩みを振り返りながら歓談していました。

記念式典の様子などを収めた合併10周年記念のテレビ番組が放映されます！

日時／3月21日(土)
16時～16時53分

放送局／RAB青森放送



モザイクアートで自分の写真を探す来場者
※モザイクアートは、3月22日(日)まで松の館ロビー、
3月23日(月)から市役所ロビーで展示します。

オープニングを飾った
森田中・木造高吹奏楽部の合同演奏



多くの出席者がさらなる発展を願いました

記念祝賀会
柏ふるさと交流センター



成田郵便局長(右)にはがきを託す福島市長

10年後の私へあなたへのメッセージ

平成17年2月、つがる市誕生を記念し、市民から「10年後の私へあなたへのメッセージ」を募りました。10年後の自分自身や家族などへの思いを記したメッセージはがきは、イオンモールつがる柏に設置した専用ポストに2834通寄せられ、市で大切に保管してきました。

10年経過し、差出人へ返送することになった2月12日、市役所で投函式が行われ、福島市長が木造郵便局の成田仁局長へはがきを託しました。福島市長は「10年前に描いていた思いを懐かしんでもらいたい。現状と比べ感激する人もいるのでは」と話していました。

さらなる飛躍目指して新たなまちづくりへ

つがる市合併10周年

安心と希望がもてるまちづくり



福島 弘 芳
つがる市長

平成17年2月11日、木造町、森田村、柏村、稲垣村、車力村の1町4村が合併し、県下9番目の市として「つがる市」が誕生いたしました。

記念すべき10周年の節目を迎えることができましたことは、市民の皆さまの市政へのご理解、ご協力のたまものであると心から感謝を申し上げます。

あらためて、つがる市の歩みを振り返ってみますと、合併当初は、旧5町村の融和、一体感の醸成を図るために、それぞれの歴史、文化、伝統を尊重し、バランスのとれたまちづくりに取り組むことが重要課題でした。

一方で、市民の皆さまが期待する新たなまちづくりとして「新田の歴史が彩る日本のふるさと」を基本理念に掲げ、基幹産業である農業を中心とした産業振興、道路や上下水道のインフラ整備、中学生までの医療費無料化、子育て支援等の福祉施策などを推進してまいりました。

特に農産物の「つがるブランド」を確立するため、首都圏や海外への販路拡大やイメージキャラクター「つがるちゃん」によるさまざまな戦略でブランド化を推進してまい

りました。

平成27年度は、市の最上位計画としての「つがる市総合計画」が最終年度となることから、平成28年度を初年度とする「第二次つがる市総合計画」の策定に着手してまいります。策定に当たりましては、これまでの検証やこれからのまちづくりについて、市民の皆さまに広く意見を聞き、さらなる活力に満ちた魅力ある「つがる市」を目指してまいります。

さらに合併10周年事業として、記念式典をはじめ、つがる市民の歌の制定、市民団体の企画による市民提案型事業など、市民の皆さまと一体となり、市の活性化につなげてまいります。

地方を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いており、当市においても人口減少、少子高齢化、産業振興など、課題は山積しておりますが、市民の皆さまや議会と一致団結し、新たなまちづくりを推進してまいります。

合併10周年は、記念すべき節目であるとともに、新たなスタートラインでもあります。これまでの10年間の歩みをしっかりと踏まえつつ、さらなる飛躍を目指し、豊かな自然や文化・歴史を継承し、次世代につなげるまちづくり、安心と希望が持てるまちづくりに向け、全力で取り組んでまいりますので、市政発展のため、さらに一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

市民・行政・議会協働のまちに



佐々木 慶 和
つがる市議会議員

市民の皆さまにおかれましては、日頃より議会運営に対しましてご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、10周年というよき節目を迎えることができましたのは、市民の皆さまのご努力、ご協力のたまものであり、心から敬意を表し、感謝を申し上げます。

本年はまた、つがる市議会改選の年に当たり、去る2月1日の選挙によつて選出された新人議員2名を含む20名で、新たなスタートを切ったところでございます。

地方分権改革の推進に伴い、二元代表制の一翼を担う地方議会の果たすべき役割や責務も一層重要となっております。本市議会におきましても議会改革検討特別委員会を立ち上げ、これまで、議員政治倫理条例の制定、傍聴券の廃止、一般質問における一問一答方式・一括方式の選択制導入、質問席の設置、議長交際費や会議録のホームページ公開等を実現してまいりました。議員定数削減もその一環として、平成23年、議員発議により提案したものであります。また、合併から2年後の平成19年には、全議員をもって構成する基

地対策特別委員会を設置し、民生安定はじめ、交付金の増額配分のための要望活動を理事者側と共に継続してまいりました。それら交付金は、市の各種施策に活用されているところでございます。

さて、地方創生元年ともいうべき本年、地方公共団体には、個性ある取り組みが求められております。本市も強みを生かした種々の取り組みを推進することが肝要であり、まずは、つがるブランドをはじめ、消費者の評価を得られる農産物づくりでつがる市の名前を全国区へと押し上げるべく、農家の皆さまと連携し、提言してまいりたいと思います。また、亀ヶ岡遺跡をはじめとした縄文文化等、当市ならではの素材は数多くあり、それらに磨きをかけることに市民の皆さまと知恵を出し合ってまいりたいと考えます。

10周年を迎え、これまでの蓄積を基礎に、「市民」「行政」「議会」の協働による賢いまちづくりを実現していかなければなりません。私ども議会といたしましては、信頼される議会、市勢発展のための政策提言のできる議会構築のため、議論を尽くし、明るく住みよいまちとして発展するよう一層の努力を傾注してまいります。

市民の皆さまには、今後もしもご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

合併10周年記念作文「私の10年」

テーマ「これまでの10年、これからの10年」

【最優秀賞】『つがる市へ』ありがとう』



成田華穂さん
稲垣中1年

私は今、13歳になりました。広い田んぼに囲まれ、大きな岩木山に見守られ、温かい人たちと過ごしてきたこの13年間。小さい頃のこととはよく覚えていないけれども、きつとつがる市は、今も昔もののびのびとして温かい場所だったのでしよう。

近所の人に見守られながら登校した小学校での6年間。夏の暑い日も冬の寒い日も、学校へ歩く私たちを笑顔で応援してくれました。「がんばれ」の一言が私たちを元気にしてくれました。そして、中学校。中学生になってもまちの人の温かさは変わりません。私はいつも笑顔で話しかけてくれるおじいちゃんやおばあちゃんが好きです。相手の名前を知らなくても私たちを見守ってくれているつがる市の人たちが大好きです。私はこれから10年先、20年先、ずっといつまでもつがる市の風景やまちの人たちのぬくもりが残っていてほしいと思っています。自分は大

学などでつがる市を離れてしまうかもしれないませんが、久しぶりに帰ったときにやっぱり地元が一番、つがる市が一番だと思えば良いです。あと10年経てば私は23歳。その頃

私はどこで何をしているのかな。今の夢が現実になっているのかな。10年なんてきつとあつという間に過ぎていってしまいます。毎日を大切に過ごして、10年前はこんなことをしていたなと思い出せたら嬉しいですね。私はつがる市が大好きです。誰かに向かつて言うことはできないけれども、この田んぼや、窓から見える岩木山は私たちをのびのびと育ててくれました。つがる市で作られた野菜やお米は私たちをこんなに大きくしてくれました。そして、つがる市の人は私たちをいつも応援して、温かな心を築きあげてくれました。いつもはこんな風に深くは考えないけれども、こうして思ってみるとつがる市には感謝しなければいけない。そして、つがる市は本当に良い所だと改めて思いました。つがる市に生まれてこれてすごく嬉しいです。ずっとこのまま、つがる市の良い所や伝統が受けつがれていきますように、私はそう願います。

【優秀賞】

『私の10年』

鈴木和子さん

柏葉野木田

『十年後のつがる市』

斉藤光輪さん

稲垣中2年

未来へ向けた想い

各分野で活躍する方々に今後の目標やつがる市に期待することなどを伺いました。



北澤由美子さん
市男女共同参画推進委員長

合併で活動の場が広がり、たくさんの人からいろいろなことを学びながら成長できました。さまざまな分野の人が広域的に連携して信頼を構築し、地域課題を解決していくことが男女共同参画につながると考えています。小さなことを積み重ね、大きな力にしていきたいと思っています。また、読書による子どもたちのコミュニケーション能力の育成や市民の憩いの場として、図書館が開設されることを期待します。



野呂淳悦さん
屏風山蔬菜生産組合・生産部長

「メロン・スイカフェスティバル」は当組合が続く限り、協力して盛り上げたいと思います。また、当組合では出荷する箱に「つがるちゃん」を入れて全国に流通しています。ゆるキャラを使用する出荷団体は希少なで、これからも相乗効果が図れるようおいしいスイカを生産します。昨年は出荷前的大雨で大きな打撃がありました。今後はどんな状況でも消費者に受け入れられる生産体制を目指したいと思っています。



佐藤慶五さん
床舞自治会長

合併により多方面で行政の機能の広がりが見られ、いろいろな面で恩恵を受けているように感じます。床舞自治会としても各種助成金をいただき、自治会活動の推進に役立ちました。最近の傾向として高齢化が進み、空き家が目立ってきています。地域の活性化に向けて、集会所を中心とした地域交流をしていきたいと思っていますので、地域行事への対する補助など、ソフト面での支援や援助を期待しています。



成田房子さん
(特養) 桑寿園・園長

人口減少が進む中で、高齢者の割合が急増しています。10年前よりも格段に介護サービス等は増加していますが、現在の制度では対応できない地域のニーズに即し、地域の関係づくりができるような機能やケアを充実させていきたいと考えます。行政と「福祉からまちづくり」の理念を共有しながら、市民の暮らしの拠点である、高齢・保育施設を幸せづくり実現の場としていきたいと思っています。